

2006年度第4回 長期計画企画拡大会議 議事記録

日時：2006年(平成18年)11月29日(水) 16:00～16:50

場所：L-911

出席者：計 76名

欠席者：計 42名

配布資料：

A. 当日配布資料

1. 長期計画企画拡大会議構成員及び各検討専門委員会名簿(2006年10月1日現在)
2. 最終報告書『人間学研究室教員の神学部移籍と新神学部・神学研究科構想』
3. 最終報告書に対する意見書(記入用紙)

B. スライド資料

1. 上智大学創立100周年記念事業募金活動について
2. アジア人材養成研究センター関連報告について

議 事

審議に先立ち、事務局より、配布資料の確認を行った。

1. 専門部会各検討専門委員会の進捗について

(1) 人間学研究室教員の神学部移籍と新神学部・神学研究科構想

池尾学務担当副学長(アカデミック・プラン等検討専門第1委員会委員長)から、標記配布資料に基づき、アカデミック・プラン等検討専門第1委員会最終報告書『人間学研究室教員の神学部移籍と新神学部・神学研究科構想』について、改革の背景、方向性並びに概要について説明があった。

- 2003年6月4日開催の長期計画企画拡大会議において、「学部・学科体制の基本構想」の最終報告を行ったが、人間学研究室の新たな体制について模索することが盛り込まれていた。
- 2005年12月にアカデミック・プラン等検討専門第1委員会の下に作業部会を設け、延べ16回にわたって検討を重ねてきた。
- 人間学研究室のこれまでの実績を踏まえた上で、上智大学の理念・方針の実現を図るべく、今回の構想をまとめた。

《質疑応答》

- Q. 石神井キャンパスの扱いはどのように考えているのか。また、この計画の実施に伴い、全学共通科目の「人間学」及び人間学系科目にどのような影響が予想されるか。
- A. 「人間学」及び人間学系科目は、現在と全く同じように実施することは難しいと思われる。「人間学」はこ

れまで通り必修科目として行うが、人間学系科目は、あるものは全学共通科目として開講するが、あるものは学全科目(学科科目で全学共通科目として認められる科目)として開講することになると思われるが、全学共通科目への影響を最小限に抑えたいと考える。新神学部のカリキュラムが決まり次第全学共通科目についても併せて検討することになる。なお、人間学を教えることのできる教員の養成についても、この計画の中で併せて進めていきたい。(池尾学務担当副学長)

- A. 神学部の本拠地は石神井キャンパであることは変更の予定はない。学部における他学部他学科科目の受講の利便性を考えると、石神井キャンパスでは大学院科目の開講がメインとなり、学部科目が一部開講されるという形が考えられる。(高祖理事長)
- Q. 教員一人あたりの学生数はどのくらいとなるのか。少人数教育を進めたくても難しい学部もあるので、全学で少人数教育を推進してほしい。
- A. 編入学定員の増加を図ることを前提に考えると、教員一人あたりの学生数は10名程度となる(池尾学務担当副学長)

併せて、意見書提出の方法について説明があった。

- 今回の質疑応答以外に、委員から意見があれば、当日配布資料にある『意見書』に、質問、意見、要望等を記入して、2006年12月20日(水)までに事務局(総務局総務・経営グループ)宛て提出していただきたい。なお、配布した『意見書』を用いなくても構わない(様式は自由である)。また、電子メールによる提出も可能である。

2. 創立100周年記念事業募金について

小瀬垣財務担当理事(財政計画等検討専門委員会委員長)から、標記スライド資料を基に、創立100周年記念事業募金活動について報告があり、教職員に向けて、なお一層の募金活動への協力について要請があった。また、募金活動等について意見がある場合は、財務局募金室グループまで寄せることについても、併せて案内があった。

3. 「グランド・レイアウト」第2期(2006～2010)の進捗と第1期(2001～2005)のフォローアップについて

(1) 理工学部・理工学研究科再編について

高祖理事長から、理工学部・理工学研究科の再編について、これまでの経過について報告があった。

- 2005年6月1日 長期計画企画拡大会議において、アカデミック・プラン等検討専門第1委員会から最終報告。
- 2005年10月20日 予備調査会を設置。理工学部内でもほぼ並行して検討を進める。
- 2006年10月20日 予備調査会答申
- 2006年11月22日 届出設置委員会を設置。2007年5月に文部科学省に提出する届出書の作成作業を行う。なお、今後、学外の有識者にも意見を求める予定である。

(2) アジア人材養成研究センター関連について

石澤学長から、標記スライド資料を基に、アジア人材養成研究センターに関連する話題等について報告があった。

- シハヌーク・イオン博物館建設中：2001年にアンコール遺跡国際調査団が発掘した274体の仏像を展示する。2007年11月に、開設記念式典を現地で行う予定であり、国内外の方々に出席をお願いする予定である。
- アンコール・ワット環境教育プロジェクト(学外共同研究)
- ISO14001取得支援プロジェクト：世界遺産の中で初めて取得した。
- 大アンコール展：全国で開催。延べ313日に渡り、49万人を動員。大学の知的貢献をアピール。
- 平成18年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」に参加(ポスターセッション)：平成18年度大学教育の国際化推進プログラム(戦略的国際連携支援)「文化遺産教育戦略に資する国際連携の推進」について発表。

なお、高祖理事長から、各検討専門委員会に対して、これまでに実現した計画について、折をみて順次フォローアップの報告をするよう要請があった。

4. 次回会議について

次回会議は、2007年1月31日(水)の大学評議会終了後(午後4時頃)より、L-911において行うこととし、詳細は追って通知する。

なお、高祖理事長から、各検討専門委員会に対し、積み残しの課題について議論を進め、その結果を本会議で報告するよう要請があった。また、実行段階に移った計画についても、継続的な自己変革体制の構築を図るべく積極的に見直しを行っていくよう併せて要請があった。

以上